

## 日本作業療法士協会 50周年記念事業 作業療法フェスタ 2016 開催報告

佐賀県作業療法士会  
会 長 倉富 眞  
事業部長 寺崎 司

秋冷の心地よい季節、作業療法の日とされる9月25日に東京では日本作業療法士協会設立50周年記念式典が開催された。その同日、佐賀県作業療法士会ではH23年より毎年開催している「作業療法フェスタ」と題した作業療法の啓発活動を開き、今回はこれを基に協会50周年記念事業の一つとした。記念ロゴや「これらかもあなたと共に 作業療法」のキャッチフレーズ、協会・県士会名を入れた参加賞を準備し、現在までの作業療法についてのアピールと未来の作業療法発展へ想いを託した。



各種検査、福祉用具の展示、自助具作成、車椅子の体験や今回初の企画にノッテコンを使用したテレビゲーム

を設けた体験エリア、また仕事紹介や高校生の作業療法体験後の感想文展示など展示エリアを設け、県士会会員43名で運営。

例年県内の有志が集い、ショッピングモールに訪れるお客さんに足を止めて頂き、楽しみながら作業療法を理解して頂けるよう、より啓発活動に力を注いだフェスタとなった。

結果としては、

・アンケート回収：89件

参加企画は複数であり、体験企画の回答は117件。

・グリーディングによるアンケート「作業療法を知っていますか？」(n=102)

知っている：42人(41%)

知らない：60人(59%)



(←貼付場面)



例年お子さま連れでの参加が多く、子どもの参加を機に参加、知るというケースが多い。そのため、体験企画の回答としては

- ・手作りできるコーナー(48/117件)
- ・車椅子及び車椅子ゲーム(42/117件)
- ・性格検査(14/117件)

が上位を占めている。

また、中高生では性格検査への参加、また年齢層が上がると認知機能検査に偏る傾向。



全企画が普段目にする機会が少ないものではあるが、共通していることは”人の生活支援”に関わる内容である事をお伝えする機会にもなった。職能団体の性格上、呼び込みや誘導など営業能力が乏しい。しかし、着ぐるみやプレゼントなどツールを用いる事でお客様の参加増加にもつながった。



佐賀県もユニバーサルデザイン化を推進している。住み良い県、街にしていけるために制度や建築環境、日常で使う道具など誰にでも使用しやすい環境が整っている。バリアフリーな外界は整備されつつあるが、人の心はどうだろうか。心や身体、他者に見える障がいと見えない障がいとあり、これら病や障がいへの理解＝心のバリアフリーが広がる一助に今回のフェスタのような活動を通して繋いでいきたい。また、子どもが抱く将来の夢や就きたい職業に、「作業療法士」が上位に挙がるような活動を今後

も展開していく。

最後に、ご来場いただいた方、モラージュ佐賀様、佐賀新聞社様をはじめ今回のフェスタにご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。



(↑2016/9/30 佐賀新聞掲載写真)

